


第一期 静岡ウェルネスプロジェクト（R7～R10）




静岡県健康福祉部健康局　健康政策課
静岡県経済産業部産業革新局　新産業集積課

フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクト（R2～R6）

プロジェクトの取組

【目標】・食を中心とする健康増進社会の実現
・異分野の融合によるイノベーションの創出

【指標】・静岡県の健康寿命 日本一
・食料品等の付加価値労働生産性 日本一

具体的な展開

産業競争力の向上

食を中心とするヘルスケアの推進

戦略１：きわめる（研究開発）



オープンイノベーションやデータ活用による研究開発の推進

・ファルマ,フォトン,AOI,MaOI,ChaOIとのプロジェクト間連携
・大学シーズやSR等の成果の公開
・健康データを活用したデータ駆動型の研究開発

戦略２：つくる（製品開発）



競争力のある高付加価値製品の開発

・県産農林畜水産物を活用した機能性のある製品開発
・優れたものづくり技術による生産性の向上（加工機械、フードロス）
・肥沃な土づくりによる豊かな農産物の展開
・健康情報を見える化するデバイス等の開発支援

戦略３：いどむ（ヘルスケア）



データヘルスの実践による健康機能の維持・増進

・県民の健康データの収集と活用（データヘルス・リビングラボ）
・健康課題に対応した製品・サービスの開発（フレイル、メタボ等）
・ヘルスケア産業の創出（食や運動を含む健康プログラムの開発）
・幼年期の食生活の向上と食育の充実

戦略４：とどける（販路開拓）



社会の環境変化を踏まえたマーケットインによる販路拡大とサービスの提供

・地域のブランディングによる商品価値の創造
・現代のライフスタイルや健康状態に応じた商品とサービス展開

戦略５：そだてる（人材育成）



産業人材等の育成と開発環境の充実によるクラスター形成

・健康講座などによる県民の社会参加促進と健康リテラシーの向上
・総合食品学講座の拡充
・健康イノベーション専攻の設置（静岡県立大学）

戦略６：ひろめる（情報発信）



「食の都」の内なる国際化と魅力ある静岡の食文化の発信

・ハラール等に対応した食の展開
・GAPやHACCP等の国際規格への対応支援
・静岡型健康食の海外ビジネスの展開

取組を支える体制

機能性食品開発プラットフォーム

・相談から届出、販路まで一貫支援
・ﾌｰｽﾞ・ﾍﾙｽｹｱ ｵｰﾌﾟﾝｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰと県立大学にて整備

化粧品開発プラットフォーム

・化粧品素材開発及び製品化を支援
・農林水産物の付加価値向上

FHCaOIフォーラム

・企業等が集まる出会いとイノベーション創造の場

ﾃﾞｰﾀﾍﾙｽ・ﾘﾋﾞﾝｸﾞﾗﾎﾞ静岡

・県民参加による実証フィールド
・サイエンスに基づくデータを収集
・新たなサービス創造の場

プロジェクトを取り巻く社会環境の変化

Politics



政治的要因

- 「フードテック推進ビジョン」による取組の推進
- 「健康・医療戦略」による**ヘルスケア産業の推進**
- **健康経営優良法人認定**の強化
- 「スタートアップ5か年戦略」による**SU支援の強化**

Economics



経済的要因

- 国際情勢の変化等による**原材料価格の高騰**
- 輸入物価、消費者物価等の**物価上昇**
- 少子高齢化の進行による**社会保障費の増大**
- **フードテック・ウェルネス**産業の**市場規模拡大**

Society



社会的要因

- 生産年齢人口の減少、超高齢化社会の進行
- **SDGs**(「すべての人に健康と福祉を」等)**の関心の高まり**
- **日本の幸福度**(ウェルビーイング)**の低迷**(世界51位)
- **エシカル・健康意識の向上**

Technology



技術的要因

- サーキュラーエコノミーに資する**食のアップサイクル技術の開発**
- 食料不足等を見据えた**プラントベースドフード等の新たな食の開発**
- 医療・健康データ等を活用した**食品や健康サービスのパーソナライズ化**
- アプリ、Fitbit等による自己の**健康状態の見える化**

これまでのFHCaOIプロジェクト戦略検討委員からの主な意見

項 目	内 容
全 体	・SDGsや食品ロス・環境負荷低減といった社会課題の解決につながる要素は不可欠 ・県内にスタートアップを呼び込むナッジのほか、支援機関、スタートアップ、地域企業が連携できる仕組づくりが不可欠。 ・食やヘルスケアはスタートアップと親和性が高く、共創できる仕組づくりが必要 ・プロジェクト拡大、ユースケース創出には、テーマやターゲット等の絞り込みも必要 ・市町やマスコミ等と連携した企業や県民にプロジェクトを情報発信する仕組づくりが必要
食品関係	・食のアップサイクルは、食の社会課題解決や、原材料価格等の削減につながる重要な要素 ・素材の見える化を図り、いかに消費者に良い商品かを分かりやすく伝えることが重要
ウェルネス関係	・サービスや製品のエビデンスが明確になることで、付加価値向上につながる ・県内の多彩なプロスポーツチームの強みを活かし、スポーツ分野との連携も検討 ・ターゲットには、現役世代、若年層、女性に加え、高齢者（特に、後期高齢者）にも配慮すべき
健康づくり関係	・社会全体として、健康意識の高まりは顕著で、健康寿命の延伸には食と運動が重要 ・健康寿命の延伸には、より長く働ける社会や企業の労働環境（健康経営）の推進が不可欠 ・社会全体の大半を占める健康無関心層へのアプローチが重要で、健康意識の低い者の健康リテラシー向上がカギ

社会環境の変化や委員意見等を踏まえた方向性

次期施策の方向性

食品産業

・フードテック等を活用し、**高付加価値で食品ロス等の社会課題解決にも寄与する新しい食品開発を強化**
・制度改正が予定される機能性表示食品の開発等、支援が必要な施策は継続

県民の健康に資する産業

・**県民の身体・精神・社会の面における健康を目指すウェルネスの視点を導入**
・健康づくりの取組と連携し、エビデンスに基づく新たなサービス等を創出

スタートアップ等の技術力を活用して、食品・ウェルネス産業の振興と健康寿命の延伸施策を融合させた「静岡ウェルネスプロジェクト」へと進化し、県民幸福度日本一の実現を目指す。

静岡ウェルネスプロジェクトの体系

目指す姿　**県民幸福度日本一の実現**

大目標　**食品・ウェルネス産業の振興**　**県民の健康寿命の延伸**

事業目標　**新たな製品・サービスの創出**　**生活習慣病予防・重症化予防**

異業種交流や情報共有等でウェルネス施策を推進

静岡ウェルネスフォーラム

FHCaOIフォーラム会員（2,061社）、健康づくりサポーター（163企業等）、市町、大学、医療機関等で構成

県民のウエルネス向上を目指すフォーラムを立上げ

経済産業部　産学官金連携のもと、スタートアップの技術等を活用し、静岡発のウェルネス産業を創出

○ 未来型食品の開発　○ 県民向けｳｪﾙﾈｽｻｰﾋﾞｽの創出　ほか

連携

健康福祉部　県民の健康状態と生活習慣の改善　個人の健康づくりを支える環境づくり

○ 健康施策の推進　○ 研究成果の健康施策反映　ほか

プロジェクトの推進体制

＜中核支援機関＞　ウェルネス・フーズ産業支援センター

○県内市町との連携　○ 県試験研究機関や静岡県立大学、静岡社会健康医学大学院大学等との連携

静岡県のポテンシャル

- ○ 県民の健康寿命の長さ
- ○ 豊富な水と温暖な気候
- ○ 多彩な企業群の集積
- ○ 多彩な県産農林畜水産物
- ○ 缶詰等の優れた加工技術
- ○ 豊富な海洋資源
- ○ 日本有数の温泉源泉数
- ○ 日本最多を誇る宿泊施設数
- ○ 多種多様なプロスポーツチーム

静岡ウェルネスプロジェクトの概要（施策の柱）

＜計画期間＞ 県総合計画等と目標年次をそろえるため、**令和10年度までの4年間**とする

＜支援対象＞ ・**食に関する社会課題解決と高付加価値化**に資する**未来型食品の創出**

・**健康寿命の延伸**に資する**ウェルネスサービス・製品の創出、健康づくりの推進**

＜施策の柱＞ ・産業振興：研究開発から販路開拓、人材育成までの**各プロセスに応じた支援**

・健康づくり：**静岡県健康増進計画に基づく健康づくり**施策の展開

領　域	施策の柱		概　要	
			食品分野	ウェルネス分野
産業振興	柱Ⅰ	**研究開発**	・フードテックシーズ探索・活用 等	・健康・医療データ等の活用・検証 等
	柱Ⅱ	**事業化・異業種連携**	・食の社会課題解決と高付加価値化に資する未来型食品の開発 ・スタートアップとの連携の推進 等	・県の強み、地域資源等を活用した新たなサービスの創出 ・市町とｿﾘｭｰｼｮﾝ企業のﾏｯﾁﾝｸﾞの推進
	柱Ⅲ	**販路開拓・拡大**	・販売先（出口）を持つ企業を核とした出口戦略の強化 等	・実証を含む販路開拓の取組支援 等
	柱Ⅳ	**人材育成**	・フードテックを始め食の社会課題解決の専門性を持つ人材の育成 等	・パーソナライズ、エビデンス等の専門性を持つ人材の育成　等
健康寿命の延伸	柱Ⅴ	**健康づくり**	・静岡社会健康医学大学院大学と連携した社会健康医学研究の推進 ・産学官連携の推進による研究成果の社会実装 ・健康経営の推進 等	

ウェルネス分野における産業振興

主な視点

・県民の身体・精神・社会面での健康を目指す**ウェルネスの視点を新たに導入**

・多様化する消費者ニーズ、生活の質（QOL）向上には**健康・医療データ等も活用したパーソナライズ化**が重要

・主なターゲットを**現役世代**に置き、特に**若年層や女性等**が「**楽しみながら利用できる**」ことを重視

・多彩な食材、豊富な温泉、多種多様なプロスポーツチームといった**本県の強みを最大限活用**

本県ならではの資源を活かし、楽しみながら健康になれるサービスの創出を図る

サービス創出のテーマ（例）

○ 食とウェルネスを掛け合わせたサービス（集積する食品産業）

・現役世代が、腸内検査等により個々の体質を把握し、体調に応じて美味しい健康食が食べられるサービスの創出

○ 自然・温泉等の観光資源を活用したウェルネスツーリズム（豊富な温泉や宿泊施設）

・観光×運動・健康食・リラクゼーション・サウナなど、女性や若者、インバウンド等向けの高付加価値な体験型サービスの創出

○ センシング技術を活用した健康・増進に資する製品（世界に通ずるものづくり技術）

・プロスポーツチームと連携し、動作解析などで楽しくトレーニング効果を向上できる、スポーツ愛好家向けデバイス開発

○ 健康経営推進サービス（多くの事業所数）

・社員向け健康診断や福利厚生の充実など、健康経営優良法人認定の取得につながる企業向けプログラムの創出

※ 高齢者の健康に対する維持・増進には、健康づくり施策を中心に取組を推進

静岡ウェルネスプロジェクトの成果指標・活動指標

区　分	指　標		現状値	目標値	備　考
KGI	健康寿命（健康寿命と平均寿命の差）		男性＋0.4歳 女性＋0.35歳 （R1とR4比較）	平均寿命を上回る 健康寿命の延び	静岡県健康増進計画の目標を準用
	プロジェクトの事業化・販路開拓等支援による製品・サービスの総売上金額		7億1639万円 （R7実績）	30億円 （R7～R10累計）	中核支援機関の直接支援による産業振興への成果を指標化
KPI	産業振興	産学官連携・次世代産業プロジェクト間連携等による試作品件数	102.0件/年 （R7実績）	80件/年	柱Ⅰ：研究開発の指標
		フードテック活用や市町の健康課題解決等に資する事業化件数	53.0件/年 （R7実績）	70件/年	柱Ⅱ：事業化・異業種連携の指標
		静岡ウェルネスフォーラム会員数	2,061社 （R8.6月時点）	2,400社 （R10）	
		展示商談会等による商談件数	1,053件/年 （R7実績）	1,000件/年	柱Ⅲ：販路開拓・拡大の指標
		未来型食品の開発、新たなウェルネスサービスの創出に資する人材育成件数	102人/年 （R7実績）	100人/年	柱Ⅳ：人材育成の指標
	健康寿命の延伸	脳卒中による年齢調整死亡率 （人/人口10万人）	（男性）109.3 （女性）64.1 （R6）	（男性）101.4 （女性）58.4	柱Ⅴ：健康づくりの指標
		高血圧症有病者の割合	（男性）44.9% （女性）32.8% （R5）	（男性）38.1% （女性）28.3%	
		特定健診受診率	61.2%（R5）	70.0%以上	
		ふじのくに健康づくり推進事業所数	8,102事業所（R7）	10,700事業所	
		ヘルシーメニューの提供を行っている特定給食施設の割合	79.4%（R7）	79.4%	

プロジェクトの重点取組

食品・ウェルネス産業の振興と健康寿命延伸の実現に向け、4つの重点取組を進める

4つの重点取組

■ プラットフォームの構築

・静岡ウェルネスフォーラムを創設し、産学官金連携により施策を展開

■ スタートアップとの共創

・ウェルネス・フーズEXPOを開催し、スタートアップと地域企業等の共創を推進

■ 食の社会課題解決への対応

・未来型食品開発プラットフォームを構築し、未利用食材の活用等を一貫支援

■ 新たなウェルネスサービスの創出

・市町等と、静岡ならではのウェルネスサービスを生む実証フィールドを展開

令和8年度のプロジェクトの重点施策

R8予算：1億4,550万円

食品・ウェルネス産業の振興

スタートアップとの共創

7月23日～25日開催

○ 県内外のスタートアップ等を招聘したフードテック・ウェルネスの商談展示会「静岡ウェルネス・フーズEXPO2026」を開催

○食品・健康産業を含む全産業領域のスタートアップと地域企業のマッチングイベントである「TECH BEAT Shizuoka2026」と同時開催

スタートアップ、地域企業のマッチング等による静岡発のフードテックビジネス等の創出を推進



静岡ウェルネス・フーズEXPO2026



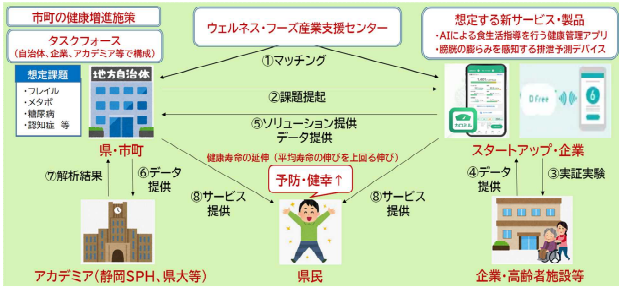
TECH BEAT Shizuoka2026

ウェルネス産業の振興・健康づくり

新たなウェルネスサービスの創出

○ 市町をフィールドとした実証や、大学や研究機関等との連携による実証データの検証等を展開

市町の健康課題解決、健康寿命の延伸に資するサービス等の創出を推進





血流改善アイシングマシン

食品産業の振興

食に関する社会課題への対応

○ マーケットインの視点によるアップサイクル商品の開発・製造・販売の一貫したビジネスモデル構築事業を実施

県内企業への横展開や企業によるアップサイクル食品開発に向けた機運向上



浜名湖産ウナギの頭を使った鰻だし塩ラーメン



「大井川じゃばら」を種以外まるごと利用した「ヨーグルトジェラート」

○ 県工業技術研究所で食のアップサイクル製品の試作・品質評価等を支援している未利用食材活用トライアル拠点を強化

未利用食材を活用したアップサイクルによる企業収益の改善、環境負荷低減を推進

○ 県内の未利用食材の発生元から活用先までをつなぐ持続可能なローカルサプライチェーン構築実証事業による課題解決

県内における未利用食材を活用したビジネスモデルを構築し、アップサイクルの取組の普及・拡大

柱Ⅰ：研究開発

アカデミア、研究機関等との連携によるシーズ探索・活用等の推進

研究機関との連携

・県立大学、静岡大学、東海大学などの**大学**や県工業技術研究所、農林技術研究所などの**公設試との連携による研究開発、シーズ探索**





地域を支える大学等の知の集積

フードテックシーズ活用可能性調査

・**企業による大学等と連携したフードテックシーズ活用**による事業化に向けた**可能性調査の実施を支援**
（助成率：2／3以内
助成額：100万円）



次世代産業関連プロジェクトとの連携

・AOI、MaOI、ChaOIプロジェクト等の連携を推進し、**各プロジェクトの強みを活かした研究開発、シーズ探索等の推進**

・東部・伊豆地域の温泉資源を活用したICOIプロジェクトとの連携を推進



次世代産業関連プロジェクトとの連携



三ヶ日みかん
（FHCaOI×AOI）



アルグスキンケアローション
（FHCaOI×MaOI）

柱Ⅱ：事業化・異業種連携

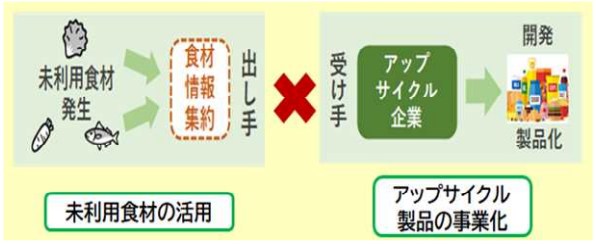
スタートアップ等との連携による社会課題解決に資する製品・サービスの開発

食のアップサイクル相談窓口の運用

・県内の未利用食材の発生状況等を集約したデータベースを運用し、**アップサイクル製品の開発を推進**



食のアップサイクル相談窓口



未利用食材の出し手・受け手のマッチング

未来型食品開発、県産加工食品輸出助成

・未利用食材を活用したアップサイクル食品など、**食の社会課題解決に資する製品等の開発を重点支援**（助成率1／2、助成額：200万円）

・海外での日本食の人気や海外人口の増加等を好機と捉え、**県産素材を活用した加工食品の海外向け商品開発、販路開拓等を支援**
（助成率1／2、助成額：150万円）

首都圏スタートアップ等との連携

・県内企業の持つ課題の解決に向け、**革新的な技術やアイデアを持つスタートアップとの協業**を推進

・**首都圏で行われるマッチングイベント**での**提案ピッチ**や**リバースピッチ**を通じてスタートアップと連携



Shizuoka Startup Day2025

機能性表示食品開発支援

・県立大学等と連携し、**相談からヒト介入試験、SRの実施、消費者庁への届出までを一貫支援**

・届出制度の変更等を踏まえ、支援を継続

ウェルネスビジネス事業化促進助成

・市町の健康課題解決や、健康寿命の延伸に資するサービス・製品の**可能性調査や実証を支援**
（可能性調査：助成率2／3、助成額100万円
実証：助成率1／2、助成額200万円又は500万円）

柱Ⅲ：販路開拓・拡大

マーケットインの視点を踏まえた販売先を意識した出口戦略の強化

アップサイクル製品等の出口戦略強化

・**販売先（出口）を持つ企業を核**とした、**持続可能なアップサイクル商品の開発・製造・販売モデルを構築**し、モデルの横展開を通じたアップサイクル商品が次々と生まれる好循環を推進

・消費者向けアップサイクル製品の試食会やアップサイクル知識向上セミナー等を開催し、**消費者のアップサイクル商品に対するリテラシー向上**を図り、**食品ロス削減につながる消費行動を改善**







これまでの食のアップサイクル成果品

食・ウェルネス関連展示会、商談会開催

・県内企業のフードテック等を活用した食品や、健康の維持増進に資する製品・サービスの販路拡大を目的とした**展示会出展を支援**

・参画市との連携による加工食品等の販路拡大を目指す**食品卸売・小売等のバイヤーとの商談会を開催**



展示会


商談会

柱Ⅳ：人材育成

食品・ウェルネス産業の地域経済を牽引する中核人材の育成

総合食品学講座の進化

・これまでの食品加工技術、機能性食品素材や食品の安全に関する内容に**新たにフードテック、食のアップサイクル等の要素を追加**

・食の社会課題解決や高付加価値化に資する**未来型食品の開発人材を育成**



座　学



グループワーク



試作品の開発



試作品の成果報告会

健康イノベーション教育プログラムの進化

・**健康・医療データを活用したパーソナライズ・エビデンス等を意識**した新たなウェルネスサービス・製品の創出に資する人材育成

・**企業× 大学（教員・学生）× 地域住民 × 自治体 等の多様な主体の参加**による事業課題解決、新しい技術・サービスに触れる機会の創出等を目的とした異業種交流・アイデアソンの開催



座学



事業化ワークショップ

柱Ⅴ：健康づくり

県民の健康寿命の延伸を目指す取組（産業連携・健康データ関係）

科学的知見に基づく施策の推進

静岡社会健康医学大学院大学等と連携した社会健康医学研究を推進

社会健康医学研究の推進

県内全市町の国保特定健診結果、国保医療レセプト、介護レセプト（ＫＤＢデータ：約260万人規模）を用いた健康長寿研究の実施



県内モデル市町における健康長寿に関する多目的住民追跡研究（コホート研究）の実施



研究成果の施策反映・実証

産官学連携により、研究成果の社会実証事業を行い、社会健康医学研究の社会実装を図る。

研究成果等の社会実証

静岡社会健康医学大学院大学の研究成果の社会実装を目指すヘルスオープンイノベーション静岡の仕組みを活用し、新たな視点の実証事業を実施



血圧測定キャンペーン

健康経営の推進

働き盛り世代からの健康づくりに着目し、企業・事業所における健康経営の推進を支援

健康づくり優良企業表彰



企業表彰

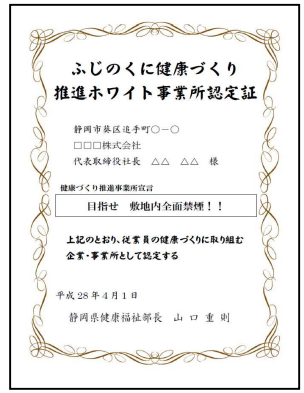


取組事例集

健康づくり宣言事業所の普及

・企業・事業所の従業員の健康管理や維持増進のための具体的な取組目標を宣言する登録制度の運用
・実施年数に応じて、白→銅→銀→金とランクアップ





健康づくり推進事業所認定証

【参考】静岡ウェルネスプロジェクトの展開イメージ

これまで取り組んできたFHCaOIプロジェクトと、健康寿命の延伸施策を再構築し、「静岡ウェルネスプロジェクト」として県民幸福度日本一の実現を目指す。

FHCaOIプロジェクト（経済産業部）

食品産業　競争力のある高付加製品の開発

- ○ 機能性表示食品の届出支援（件数323件（H27～）、全国4位）
- ○ フードテックを活かした食品開発、実証（協業支援4件）　ほか



機能性表示食品


CNF活用防災食


総合食品学講座

ヘルスケア産業　データヘルスの実践による県民の健康機能の維持・増進

- ○ 県民の健康データの活用（県立大学のリビングラボ活用4件）
- ○ ヘルスケアビジネスの事業化支援（15件）


実証フィールド「みなくる」


製品化に向けた消費者モニター



助成金による製品化

健康づくり施策（健康福祉部）

- ○ 科学的知見に基づく施策の推進（KDBデータ分析・コホート調査）
- ○ 健康経営の推進（健康づくり宣言事業の普及　ほか）
- ○ 研究成果の施策反映・実証の取組（ヘルスオープンイノベーション静岡）


コホート調査


健康づくり優良企業表彰


健幸惣菜商品開発

連携

食品・ウェルネス産業の振興（経済産業部）

○ 未来型食品産業の創出

- ・フードテックを活用した社会課題解決・高付加価値食品の開発（未利用食材の活用、防災食 ほか）
- ・機能性表示食品の開発・届出支援


多彩な食材


優れた加工技術



スタートアップ

○ ウェルネス・フーズEXPOの開催

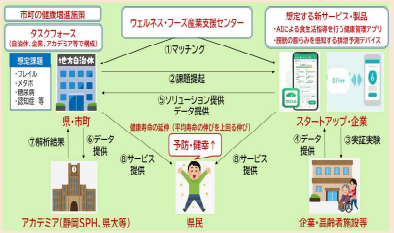
- ・ウェルネスサービスやフードテック等県内外の先端技術を集めた展示会


植物工場


陸上養殖

○ 県民向けウェルネスサービスの創出

- ・スタートアップ等の技術を活かし、市町の健康課題解決を支援

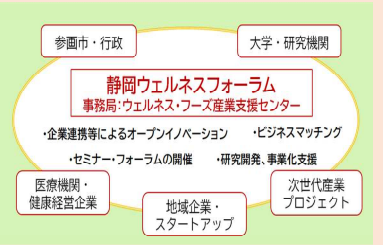


市町とスタートアップ等のマッチング、実証等

- ・タスクフォースによる静岡SPHの研究成果の社会実装

○ 静岡ウェルネスフォーラムの立上げ

- ・企業、市町、大学、医療機関等で構成し、県民のウェルネス向上を目指す組織



静岡ウェルネスフォーラム

健康づくり施策（健康福祉部）

- ○ 科学的知見に基づく施策の推進
- ○ 健康経営の推進
- ○ 研究成果の施策反映・実証の取組（ヘルスオープンイノベーション静岡）


血圧測定キャンペーン

静岡ウェルネスプロジェクト

【参考】未来型食品とウェルネス産業の定義

未来型食品

定義

高付加価値化と食品ロス、食に関する社会課題解決の両立を目指すため、フードテック等を活用した食産業の未来を見据えた食品

フードテック ＝ 食 × テック（先端技術）テクニック（伝統製法）

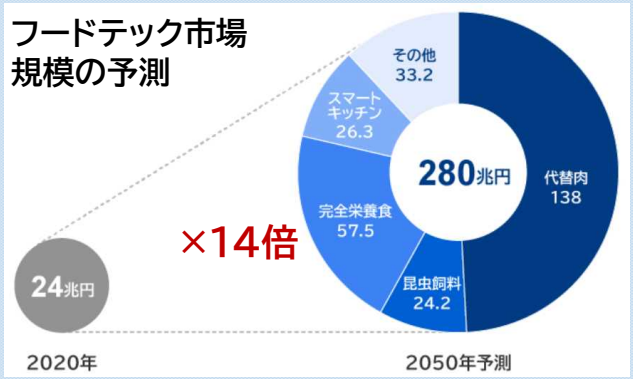
主たる物

食のアップサイクル、完全栄養食、防災食、代替肉、発酵食、ヴィーガン、パーソナライズドフーズ　ほか

市場規模



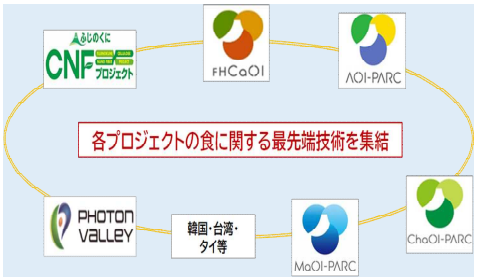




＜出典＞三菱総合研究所
「R2フードテックの振興に係る調査委託事業」

連 携

食と親和性の高い先端産業創出プロジェクトと連携して、フードテックを活用した食品開発を支援



ウェルネス産業

定義

身体的・精神的・社会的健康を基盤に、より健康で輝かしい人生を志向する状態を支援する前向きなビジネス領域（公的医療保険・介護保険は対象外）

主たる物

ウェルネスフード、ウェルネスツーリズム、予防医療、介護医療、フィットネス、ビューティー、リラクゼーション、睡眠、健康経営　ほか

市場規模

ウェルネス（ヘルスケア）市場規模の予測



＜出典＞経済産業省
「R4ヘルスケアサービス社会実装事業」

連 携

各部局との連携により事業化を推進

領　域	主担当部局
ウェルネスフード、予防医療、介護医療、ビューティー、リラクゼーション、睡眠、健康経営、フィットネス、ウェルネスツーリズム 等	経済産業部 健康福祉部 スポーツ・文化観光部